▲10月２日　消防指令センター開所式（消防本庁舎）

▲９月29日　救急の日（日清プラザ）

PhotoMY town
フォト マイ タウン

▲10月14日　バリアフリー教室（北上小学校）

▲９月28日　坂小学校農事体験（大根の種まき）

▲10月８日　マタニティセミナー（保健センター）

▼10月３日　夏祭り絵画コンクール表彰式

# 歴史の小箱

No.330

## 三島の絵はがき２
### ー災害絵はがきー

**郷土資料館では十月十日㈯から企画展「絵はがきでみる三島」を開催しています。今回は展示資料の中から、災害に関する絵はがきを紹介します。**

前回は、色使いやデザインが美しい記念絵はがきを紹介しましたが、今回は一転して、辛い記憶を刻んだ絵はがきを紹介します。

テレビや写真雑誌などがない時代、絵葉書は社会のできごとを伝えるメディアのような役割もありました。災害や事件が起こると、臨場感のある場面がすぐさま絵はがきとして販売され、全国に流通しました。三島で起こった災害の様子も絵はがきに記録され、当時の被害の様子を今に伝えています。

大正十二年（一九二三）九月一日、相模湾沖を震源とする関東大震災が発生し、東京・神奈川を中心に甚大な被害をもたらしました。静岡県東部も震度六の揺れに襲われ、三島では家屋全壊十三軒、死傷者五人の被害がありました。

写真①は、三島町（※）の被害の様子です。絵はがきからは、建物が大きく崩れていることから、被害の大きさがよくわかります。

※大正十二年当時の三島町は、旧東海道を中心とした地域（東西は大場川から境川、南北は国道一号線辺りからＪＲ東海道線辺り）です。

▲写真①：絵はがき「関東大震災東海道三島町の惨状」

関東大震災に見舞われた七年後の昭和五年（一九三〇）、丹那盆地を震源とする北伊豆震災が発生し、関東大震災を上回る、家屋全壊三三六軒、死傷者一四〇人という甚大な被害に遭いました。その惨状や軍隊・青年団などによる救護活動の様子が絵はがきに残されています。

写真②は、旧東海道、大通り商店街の様子です。沿道の商店が軒並み潰れ、商店街は壊滅的な被害を受けたことがわかります。この後の復興事業では道路が拡幅され、現在の広さになりました。

このような絵はがきが残されているおかげで、現在の私たちもかつて三島が被った被害の大きさを感じることができます。

▲写真②：絵はがき「北伊豆震災三島町久保町付近の惨状」

**企画展「絵はがきでみる三島」は楽寿園内の郷土資料館で十二月十三日㈰まで開催しています。楽寿園では十一月三十日㈪まで菊まつりを開催しています。併せてご覧ください。**

## 三島の村名③ 山中新田（錦田地区）

山中新田は、箱根西坂にある五ヵ新田のうち最も上に位置する村です。この五ヵ新田は江戸時代初期の元和（げんな）年間（一六一五～一六二四）に近隣の次男・三男を集めて成立したとされています。村の名前は、北西にある元山中からの移住者が多かったため、この名で呼ばれるようになったそうです。

また、戦国時代末期築城の山中城があり、三の丸跡には山中城の戦いで戦死した豊臣・北条方両軍の武将をまつる宗閑寺（そうかんじ）があります。

江戸時代、西坂を往来する旅人の休憩所として茶屋が建ち並び、三島宿と箱根宿の間（あい）の宿として盛況でした。しかし、明治二十二年（一八八九）の東海道線開通を境に徒歩での箱根越えの旅人が激減し、家業が成り立たず多くの家が転廃業し、畑中心の農村へと変化していきました。

▲山中新田遠景

問 郷土資料館（☎971－8228）